

国際ロータリー第2590地区



世界に希望を生み出そう

2023-2024年度 国際ロータリー会長
ゴードン R. マッキナリー

HP : <http://www.kawasaki-chuo-rc.com/>
E-mail : info@kawasaki-chuo-rc.com

先達を敬い、未来を見据えて行動をしましょう！

例会：毎週月曜日 12:30

例会場：川崎日航ホテル TEL: 044-244-5941

事務所：210-0004 川崎市川崎区宮本町7-1 三陽会館ビル5階

TEL: 044-233-3005 FAX: 044-233-8460



幹事
谷中 努

会長
牧島 聡

副会長
安東仁志

第1687回 令和6年2月5日 VOL.39 No.22

川崎中央ロータリークラブ WEEKLY

- 司会……熊野SAA
- 点鐘……牧島会長
- ロータリーソング 佐野会員
「奉仕の理想」
- 本日のメニュー 和食

特別ビジター紹介

米山奨学生 宋文婷様

オブザーバー



河井雪枝様

出席報告

	会員数	出席 該当者	出席者	欠席者	ホーム クラブ	メイク	前々回 修正
1687回	44	43	30	13	69.76		
1685回	44	43	31	12	72.09		

牧島会長

1月2月の誕生日

関根親睦活動副委員長

1月

青木 松枝会員 (2日)・瀧上亜里佐会員 (10日)
高後富美江会員 (14日)・高野美幸会員 (20日)
渡辺雅夫会員 (21日) 林 敏夫会員 (28日)
・山口幸太会員 (28日)

牧島聡会長指針 『 更なる飛躍の年に、新しい奉仕活動を見つけ、実現しよう! 』
～全会員がさらに団結し、新しい奉仕活動を見つけロータリーライフを楽しもう～

2月

森川友生男会員 (11日)・坂本竜麻会員 (15日)
伊藤康人会員 (17日)・渡部典行会員 (17日)



会長報告

牧島 聡 会長

1. 能登半島地震の支援金として、1人1,000円を拠出することを理事会で決議しましたので、皆様ご協力願います。
2. 入会5年未満の新会員対象の地区フレッシュ交流会が、3月1日の金曜日から翌日2日の土曜日にかけて1泊2日でローズホテル横浜において開催されます。申込期日は今週の金曜日までです。
3. レディース交流会が3月8日の金曜日に横浜ロイヤルパークホテルで開かれます。参加対象者は、女性会員・女性会員候補者と女性会員候補者を同伴する男性会員です。申込期日は来週の金曜日です。
4. 横浜・川崎市内在住のウクライナ人避難者リフレッシュ旅行が3月31日の日曜日に開催されます。バスで富士山YMCA グローバルエコビレッジに行って、バーベキューの昼食を取った後、乗馬体験をする日帰り旅行です。日本側の参加対象者はロータリアンとその家族です。申込期日は2月22日です。
5. 1月14日に開かれた「第56回大師地区青少年書初め大会」にニコニコから1万円を寄付しました。

米山記念奨学会寄付・表彰

米山功労クラブ 40回 受賞

➤ 米山功労者

- ◇ 第9回 米山功労者
川島光会員・森本邦康会員
- ◇ 第7回 米山功労者 島田喜彦会員
- ◇ 第5回 米山功労者 青木松枝会員
- ◇ 第4回 米山功労者
木村教義会員・渡辺雅夫会員
- ◇ 第2回 米山功労者 阿野順一会員

計7名

幹事報告

◎ 例会変更のお知らせ

川崎RC

- 2月8日(木) 休会
- 2月22日(木) 休会

川崎大師RC

- 2月14日(水) 休会
- 2月21日(水) 移動例会
- 「創立51周年記念例会」

横浜ベイクォーターホテル&タワーズ 28階

◎ 週報を送ってくださったRC

ありません。

◎ 本日の配布物

会報 1/10.1/21
ガバナー月信
理事会議事録

委員会報告

廣瀬社会奉仕委員長

2月26・27日の社会奉仕活動について
神奈川県立こども医療センターにてキッチンカーでの販売

スマイルレポート

安東副会長

- 牧島会員……コロナから復帰しました。ただ、復帰後にひいた風邪がまだ若干残っているみたいです。
本日は宋さんの最後の卓話ですね。楽しみにしています。
河井様、ようこそおいでなさいました。楽しんで、そして入会されるのをお待ちしております。
- 谷中会員……久しぶりの通常例会です。
皆様今年もよろしくお祈りします。
- 松本会員……①宋さん卓話楽しみにしています。
②家内への誕生祝、お花ありがとうございます。
- 青木会員……1月の誕生女子会はお世話になりました。楽しかったです。
- 森川会員……皆様こんにちは。
日本代表残念でした。次回のワールドカップに必ず頑張ってくれるでしょう。
- 伊藤(康)会員……①久しぶりのホーム例会ですね。雪、大丈夫でしょうか？皆様気を付けて下さい。
②宋さん卓話楽しみです。
③河井様ようこそ！楽しんでいて下さい！
- 石川会員……①久しぶりの例会ですね。
②宋さん卓話よろしくお祈りします。
③河井様ようこそいらっしやいました。是非ぜひお待ちしております。
- 木村会員……寒暖の差が激しくなってきました。立春がすきてから寒くなりますね。皆さん体に気を付けて過ごしましょう！
- 阿野会員……皆さんこんにちは。
本日は、雪の予報ですね。明日出張で高地なのですが、飛行機が飛ぶか心配です。
- 渡部会員……本日のクリスマス家族会よろしくお祈り
- 山口会員……本年も宜しくお祈りします。
- 本多会員……今日の例会の帰りにはもう雪が積もっているかもしれませぬ。今日は宋さん卓話楽しみにしています。もうすぐ社会人ですね。
- 林(敏)会員……節分祭や新年会も一段落しました。今日は雪が積もりそうですのでお気を付けてください。
- 和田会員……久々の例会を楽しみにやってきました。地震・大雪・インフルエンザにコロナと気を付けられないことが多すぎますが、皆さんと共に体調管理に気を付けたいと思います。
- 原 会員……本日は大変寒いですね。大雪にならないのであればいいのですが。宋さん卓話大変楽しみにしております。河井さんオブザーバー出席ありがとうございます。本日もどうぞよろしくお祈りいたします。
- 安東会員……①河井様ようこそ。是非入会お待ちしております。
②宋さんお元気でまた会いましょう！

牧島聡会長指針 『 更なる飛躍の年に、新しい奉仕活動を見つけ、実現しよう！ 』
～全会員がさらに団結し、新しい奉仕活動を見つけロータリーライフを楽しもう～

1687 回	14 件	16,000 円	累計	328 件	522,000 円
--------	------	----------	----	-------	-----------

卓 話

ウクライナの紛争について

米山奨学生 宋文婷

それでは今日のスピーチに移ります。今回が最後のスピーチなので、どのようなテーマにしようかとずいぶん考えました。日常生活の報告もいいのですが、やはりロータリーの目的や趣旨とはあまり関係がないような気がしていました。ちょうどこの前、学校のロシア史の授業でウクライナとロシアの紛争について学んだところ、ロータリーも世界の平和を究極の目標として活動しているのだと思いました。そこで今日は、なぜウクライナとロシアに平和がないのか、そしてこれをヒントに、平和のために私たちに何ができるとするかをお話したいと思います。

平和がない理由-民族間の対立

今、世界で平和が欠けている大きな原因のひとつ、ウクライナ紛争の原因はいったい何なのか？ ウクライナ紛争という言葉はよく耳にすると思うし、テレビでも戦争がどこまで進んでいるのか、EU がどうのこの、プーチンの発言がどうのこのと話題になっています。しかし、具体的になぜ戦っているのかを知らない人も多いと思います。

原因は様々な言い方がありますが、個人的に一言でいうと、それは民族間の対立だと考えています。もっと分かりやすく言うと、私はあなたとは民族が違う、文化が違う、一緒に暮らせないということです。

日本は単一民族の国、つまり大和 yamato 民族の国です。日本にいる人はみんな同胞である、日本語を話す人はみんな同胞どうほうであり、ひとつの国で生きていけるとい感覚は皆さんすでに持っていると思います。しかし、大和民族でない人は、少し違和感を感じますね。

ここにいる皆さんは、今までずっと優しくしてくれますが、もしいつか中国と日本がひとつの国になるとしたら、「ああ、それはなかなかうまくいかないだろう」と考える人が絶対大勢いますね。こういう考え方はごく普通のことです。私も日本が大好きだけど、中国人と日本人が一つの民族になることは、なかなか想像できない。なぜなら、国家、民族、政治という社会学的概念と、それに基づいて発展する文化が、すでに私たちの心の中に深く埋め込まれているからです。

ウクライナ紛争はまさに、2つの異なる民族が同じ国に分断されることによって引き起こされる紛争です。実際、これは世界のほとんどの戦争でほぼ常に見られることで、第二次世界大戦は、ヒトラーに支配されたゲルマン民族が、自分たちが最も偉大な民族だと感じて引き起こしたものです。中国大陸と台湾の紛争もそうで、大陸側は台湾人を我々と同じ民族だと思い、他方、台湾側は政治活動によって自らを脱中国化したと考えています。近代における戦争のほとんどは、「民族性」によって引き起こされてきたと言えます。

ツァーリズム時代：愛し合う一つの民族

ウクライナ紛争や他の紛争をはじめ、民族性が世界平和を不安定にする大きな要因であることがお分かりいただけたと思います。

しかし、最も皮肉なことは、今でこそ戦争状態にあり、お互いを正反対の存在だと考えているロシア人とウクライナ人が、実はかつては愛し合う一つの民族だったということです。

ロシアにはウクライナに親戚を持つ人が1,100万人おり、彼らはロシアがウクライナを侵略しているのではなく、ウクライナを脱ナチス化しているのだと信じている。また、プーチンは演説の中で【兄弟民族】という言葉をよく使う。この言葉はロシアとウクライナが合併がっぺいした時にさかのぼります。

ずっと前から、ロシアは土地を集めるのが大好きな国です。ロシアの歴史は、ユーラシア大陸におけるロシア民族の拡大の歴史です。拡大の過程で、ロシアは土地を併合しただけでなく、その土地に住んでいた多くの民族を受け入れました。ウクライナ人もその一つです。他の民族とは異なり、ロシア人はウクライナ人やベラルーシ人に対してより強い民族感情を持っています。17世紀後半にツァーリズム・ロシアと東ウクライナが合併して以来、ロシアはウクライナに対して「小ロシア」という言い方を持っていました。この言葉は、ウクライナ人がロシア人そのものに非常に近いことを意味します。この関係は、イギリス人とスコットランド人の関係よりもはるかに仲良いです。ツァーリス時代には、多くのロシア人が自分たちをウクライナ人と共にロシア

国家の一部と考えていました。ロシア国家の概念そのものが、大ロシア、小ロシア、ベラルーシを含んでおり、誰もがスラブ人の兄弟だったです。

また、ウクライナは18世紀以降、長い歴史の中で何度もロシアの剣けんを利用してウクライナの土地を獲得してきました。トルコとの戦争で、オスマン帝国は北部の土地を徐々にツァーリズム・ロシアに割愛していました。クリミアを除いたウクライナ南部と東部にほぼ相当します。カテリーナはこの地を新ロシアと名付け、その後の時代、新ロシアの人は建設部隊として機能してきました。1897年、新ロシアで行われた地域の国勢調査では、ロシアとウクライナの共同統治がここで発展していることを明らかにし、都市人口のほとんどがロシア語を話し、農村人口のほとんどがウクライナ語を話しています。統計では言語によって民族が特定されることがほとんどだったので、地域住民がロシア人なのかウクライナ人なのかを血縁で区別することは難しかったです。ロシアとウクライナは、ツァーリ時代、民族的アイデンティティの点でも、定住の範囲の点でも、切っても切れない関係にあったと言えます。

ソ連時代：愛し合う2つの家族

1917年、ツァーリズム時代の終わりとともに、ロシアは国内全域の支配を徐々に失っていました。これらの土地の人々は独立への願望を育んできました。やがてソビエト連邦は、ウクライナを新国家に残すため、自治権という形で連合国家を形成する政策を採用し、1922年にウクライナはロシア、ベラルーシ、トランスコーカサスの3共和国に加わってソビエト連邦を形成した。この時、ウクライナとロシアは2つの共和国であり、その区別がつけられた。ツァーリズム時代のロシアとウクライナがひとつの家族だったとすれば、ソ連時代のロシアとウクライナは愛し合うふたつの家族だった。ソ連はロシア人とウクライナ人の友好をしばしば推進したが、同時にウクライナをロシア人とは別の国家として常に認識していた。ソ連はウクライナ語を公式な形で成文化し、ウクライナ出身の幹部をウクライナの行政に任命した。ヤルタ会議の際、スターリンはウクライナがナチスとの戦いで多大な犠牲を払ったことを理由に、国際連合創設メンバーの席を確保した。

政治の影響：憎にくしみの道へ

しかし、ソ連が十分な配慮をしなかったのは、ウクライナの領土分割だったのです。

スターリンの場合は西ウクライナを、フルシチョフの場合はクリミアを分割しました。しかし、この2つの土地の民族は一緒に住むことができます。西ウクライナはポーランドの影響を受けたウクライナ民族が支配し、クリミアはロシア人が支配しています。西ウクライナは西スラブ文化圏に属し、カトリックでデス。クリミアは東スラブ文化圏に属し、正教徒が多い。西ウクライナはロシアをほとんど意識せず、クリミアはロシアを家族として見ています。ドイツが侵攻してきたとき、西ウクライナは喜んで迎え、クリミアは最後まで抵抗しました。この2つの土地の人々にはほとんど共通点がなく、ソ連は彼らを一緒に詰め込んだです。ウクライナの領土は大きく拡大したが、その代償として民族の混合の実験場となりました。

親ロシアの東側と反ロシアの西側は互いに争い、お互いを悪く見ていました。しかし69年後、ソ連は失敗し、1991年、ボリス・エリツィンはウクライナとベラルーシの大統領とともに、ソ連の存在を終わらせる協定に調印しました。新しい国境線は加盟国の国境線に従って引かれ、他の加盟国に住むロシア民族がどうなるかはまったく考慮されなかった：800万人のロシア語を話すロシア人がウクライナに取り残され、尋ねられることもなくウクライナ人となりました。

独立後、ウクライナの前に立ち上がった大きな問題のひとつは、国民的アイデンティティを確立するために何をすべきかということでした。ウクライナには独自の文化がない。ウクライナ人自身も、何が本当のウクライナ人なのかを定義するのに苦労しています。国民的アイデンティティを確立するために、ウクライナは最も単純で残酷な方法、すなわち反ロシア主義を選びました。1992年、ウクライナは正式にウクライナ語を国語として制定し、それ以来、ウクライナ語を話せないロシア系民族は、職場、学校、社会でさまざまな差別を受けてきました。確かに、ロシアから独立したばかりの国にとって、反ロシア的であることは、自国の民族的・文化的精神を確立するのに役立ちます。しかし、ウクライナの問題は、国境内にロシア人が多すぎることです。ロシア系民族はウクライナの人口の20%を占めており、反ロシア的であるということは、人口の5分の1を追随し、5分の1を怒らせる政策を導入することです。2005年には反ロシア的で有名なユシチェンコ大統領が政権を握り、ソ連の記念碑ひをすべて破壊すると発言しました。これはウクライナのロシア系民族の恨みを買いました。ユシチェンコ

がウクライナ人の記念碑を建てたとき、ロシア系民族はそれを海に投げ捨てました。

こうして、もともとは血で区別できない民族が、一方はロシア語を話し、もう一方はウクライナ語を話すという事実によって互いに区別され、憎み合う長い道のりが始まりました。

平和のために一民族は実際には存在しなかった論

ここまで、ロシアとウクライナの歴史を簡単に説明してきた。ウクライナとロシアはかつてとても仲が良く、見分けがつかなかったが、政治の影響を受けて徐々に敵対するようになったということをおぼろげに学んだらう。

では、人々を紛争に巻き込まないためにはどうすればいいのか？

ここで、私がとても気に入っている本からある主張を紹介したいです。それは『サビエンス全史』という本で人類学の著作です。この本は人類の歴史、社会発展の歴史について詳しく述べています。私は個人的にこの本がとても好きで、みんなにお勧めです。ここでは、その本の【国家は実際には存在しない】という説を簡単に紹介しよう。

どうすれば平和を維持できるのか？ 私たちは、実は国家そのものが存在しないことに気づく必要がある。だからこそ、国家や国家をめぐる争いもすべて無意味なのだ。

え？ 国家が存在しない？ ありえない！ 私は大和民族だ！ そうお思いでしょう！

しかし、悲しいかな、民族、国、宗教、さらには法律、性別、私たちがよく知っているものの多くは、実際には存在しないです。正確に言えば、それらはすべて人間の脳の中にしか存在しない、人間特有の物語です。

実際、古代であれ近代であれ、帝国であれ連合国家であれ、それは想像力によって構築された秩序にすぎない。それを支える社会規範は、人間本来の本能でもなければ、対人コミュニケーション関係でもなく、誰もが信じ、共有する架空の神話的物語なのである。

架空の物語はどのように国家を支えるのか？ 2つの有名な架空の物語は、紀元前1776年のハンムラビ法典で、数十万人の古代バビロニア人のための協力マニュアルである。もうひとつは西暦1776年のアメリカ独立宣言で、これは現代の何億人ものアメリカ人のための協力マニュアルともいえる。

どちらも普遍的で永遠の正義を謳うたっている。アメリカ人はすべての人間は平等だと信じているが、バビロニア人はそうではない。実際、どちらも間違っていた。ラビ・ハンムラもアメリカ建国の父も、世界には普遍的で永遠の正義の原則（平等や階級など）があるかのような想像上の現実を思い描いていたが、そのような不変の原則は、実際にはホモ・サビエンスの豊饒な想像力の中にしか存在せず、彼らが創作し、互いにかかり合う架空の物語の中にしかなかったのだ。このような原理は決して客観的に正しいものではない。

人を「上流階級」「平民」に分けると聞けば、想像の産物に過ぎないというのが私たちの意見だろう。しかし、実は「万民平等」と言われても、それは架空の概念に過ぎない。いわゆる万人の平等とは一体何なのか。想像以外の客観的事実で、人間はみな平等だというものがあるのだろうか？ 生物学的に人間は平等なのだろうか？ 生物学的な観点から、アメリカ独立宣言の最も有名な一節をもう一度見直してみよう：

われらは、これらの真理を自明のものとする。すなわち、すべての人は平等に造られ、創造主によって一定の譲ることのできない権利を与えられている。

冒頭、すべての人が平等に創造されたことを語るのに英語で使われる言葉は「創造する」(create)であるが、生物学は「創造する」のではなく、進化する (evolves) のである。しかし、生物学には「創造」がなく、「進化」がある。進化には「平等」がなく、いわゆる平等の概念は「創造」の概念と密接な関係がある。アメリカの「平等」という概念はキリスト教に由来し、人間の魂はすべて神によって創造され、神の前ではすべての魂は平等であると信じている。しかし、神、創造、魂というキリスト教の神話を信じることができなければ、誰もが「平等」であるとはどういうことだろうか？ 進化論は平等ではなく、差異に基づいている。誰もがわずかに異なる遺伝因子を持ち、生まれたときから異なる環境の影響にさらされ、生存確率につながる異なる形質を発達

させている。“生まれながらにして平等”は、本当は“異なる進化をとげた”と言うべきなのだ。

同様に、生物学には「権利」というものは存在せず、器官、能力、特徴だけが存在する。鳥が飛ぶのは翼があるからであって、「飛ぶ権利」があるからではない。さらに、これらの器官、能力、特性には「不可侵」なものは何もなく、それらはしばしば突然変異の対象となり、ある時期が過ぎると完全に消滅してしまうこともある。例えば、ダチョウは飛ぶ能力を失った鳥である。したがって、「不可侵の権利」とは実際には「変異しうる特性」なのである。

では、人類の進化の特徴とは何か？ 生命については間違いないが、「自由」についてはどうだろうか？ 生物学は自由について語らない。「自由」は「平等」や「権利」や「有限会社」のようなもので、人間が作り出した概念だ。人間の想像力の中にしか存在しない。生物学的な観点からは、人間が民主主義社会では自由で、独裁社会では自由でないというのは、まったく意味がない。最後に、「幸福」とは何か？ これまでのところ、生物学的研究は「幸福」の明確な定義を提示することも、それを客観的に測定することもできていない。ほとんどの生物学的研究は、「快楽」が存在し、それを定義し測定する比較的簡単な方法があることを認めているに過ぎない。したがって、「生命、自由、幸福追求の権利」とは、実際には「生命と快楽の追求」に過ぎないのである。

では、アメリカ独立宣言が生物学的、科学的観点から書かれていたらどうなっていたかを見てみよう：

われらは、これらの真理を自明のものとする。すなわち、すべての人間は異なる進化をとげ、生まれながらにしてある種の可変的な特性をもっており、そのうちの一つが生命と快楽の追求である。

じゃ、この理論をどうやって平和のために生かすだろう？

よく考えてみれば、「民族」というのも現実のものではなく、社会学的な概念であり、人間が作り出した虚構である。誰もが信じている嘘なのだ。

なぜなら、あなたが「民族」の存在を信じるのは、あなたが「民族」を見ているからではなく、みんなが「民族」を信じているから、あなたもその存在を信じるのだから。

そして、私たちはそれを信じるだけでなく、実際には真実ではない話に夢中になっている。きっとあなたも聞いたことがあるはずだ、私たちは国民のため、国のために戦わなければならないという言葉。極端に言えば、自国民のために他国民を傷つけ、それは光栄だと。そのような国民感情の中で、平和は何度も崩壊する。

つまり、私が今日言いたいのは、国家、国家、宗教といった社会学的概念は実際には存在しないというのを理解することで、社会を支配している人たちが作り上げた言葉をめぐってきょうらんし、殺し合いさえするのは無意味だということに気づくことができるということだ。

もちろん、すべての人がこうした概念を完全に捨てるわけではない。自国や自国民を誇りに思うことは、多くの場合、人々に自信を与え、やる気を起こさせる。しかし、自分の民族、自分の国、自分の社会的地位、自分のお金などが他人より優れていると感じるとき、実はこれらすべてが実際には存在しないことを忘れてはならない。正確に言えば、私たちは生物学的には、同じホモ・サビエンスであり、遺伝子配列が少し違うだけ。

今週の担当者

阿野会員

会報委員 瀧上亜里佐 阿野順一
島田喜彦 森崎敏広
和田 裕 坪井麻衣子
事務局 伊藤 清恵

川崎中央ロータリークラブ Weekly
Vol. 39 No. 22
編集・作成 川崎中央RC事務局
発行日 令和6年2月5日

牧島聡会長指針 『 更なる飛躍の年に、新しい奉仕活動を見つけ、実現しよう！ 』
～全会員がさらに団結し、新しい奉仕活動を見つけロータリーライフを楽しもう～

牧島聡会長指針 『 更なる飛躍の年に、新しい奉仕活動を見つけ、実現しよう！ 』
～全会員がさらに団結し、新しい奉仕活動を見つけロータリーライフを楽しもう～